



▲稲崎ご夫婦

スです！
社長さんから送られた、巨大なデコレーションケーキは真ん中のテーブルに、天井に届くほど高いツリーには、間屋街まで出かけて買求めたツリー飾りやキラキラで、華やかに飾り付けられたら、食堂は素敵なホールになって、パーティーの始まりを待っています。

そのツリー全体の費用は、運輸部長さんからの金一封だったことを大会の折りにおじさんご挨拶で知ることとなり、ケーキとツリーの由来に感謝の大拍手で幕が開きました。日ごろお世話になっているガイド部、運輸部、人事の方々もお迎えして、74名

の大賑わいですが、のど自慢さんも大勢いる集まりですが、カラオケ等ない頃でしたが、何も心配は入りません、マイクさえあれば全てがアカペラで進行します。まずは静かに(聖夜)を合唱し、少しずつ盛り上がっていきます。若いみんなの食欲は旺盛で、大きなケーキをカットして頂いても、さらには係が面白い物をして用意してくれた、おにぎりやおつまみ、果物やお新香も食べたいのです。気配り満点のガイドさん達は座を楽しくしてくれるプロばかりですから、素晴らしい成り行きとなります。男性の方々も巻き込んで食堂からの廊下へと

歌いながらフォークダンスを踊って1周、最高に盛り上がりた最後の仕上げは、我らのテーマソング(東京のバスガールを元氣いっばいに歌いあげてジエンド)。

懸命に頑張った1年を終える寮生たちの、それぞれに満足げな笑い顔がありました。

それにしても、行事の際には助言を、ボイラーの故障等には労力を、痴漢騒ぎのときの警察官との話し合いは穏やかに、成人式での着付けや付き添いには、ご夫妻も目を細めてうれしそうにと、どんな場所にも管理人のお二人には深い愛情がありました。常々、「はとバスのガイドさんは日本一、その誇りを大事にしなさい」と諭してくれるお二人でした。おおらかで責任感が強く、花作りが上手な人格者のおじさん。おしゃれで料理上手で、絵も上手で、多趣味で着物好きで、様々なことが何の苦勞もなくできてしまう、そのどれもが人々を喜ばせていたおばさん。素晴らしいコンビで大勢の寮生のお世話を楽しそうにしていた稲

垣様ご夫妻に、今改めて心からの感謝を申し上げる次第です。
しみじみと懐かしく、尊敬の念が深まります。

編集者注記

清美寮と共に20余年、原稿にある通り寮生を愛し、大切に育ててくれた稲崎ご夫妻は、はとバスを退職後は郷里熊本県八代郡鏡町(現在の八代市)にお住まいでした。筆者の木村タキさんをはじめ多くの寮生と、その後も親交は続きましたが、帰郷して数年後の昭和58年に稲崎リツ様が、そして翌年に稲崎盛喜様が、多くの寮生とはバス関係者に惜しまれつつ逝去なさいました。今回の清美寮閉鎖に際し、ご夫妻が在職中に寮生だったガイドの皆様から思い出話を伺うにあたり、必ず稲崎ご夫妻の思いで話がありました。(日本のガイドであれ)との信念で寮生を見守ったお二人は、清美寮の歴史にとどまらず、はとバスの歴史を語るには、欠くことのできないご夫妻であったことを、改めて認識いたしました。
お二人のはとバスへのご尽力に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

はとバスグループ鳩友会
2024年新年懇親会開催のお知らせ
■開催日:2024年1月28日(日)
来る2024年1月28日(日曜日)にシンフォニーのランチクルーズにて2024年新年懇親会を開催いたします。奮ってご参加ください。役員一同お待ちしております。※詳しい要領は同封のパンフレットをご覧ください。

計報
黒瀬 智弘さん
(くろせともひろ)
在職中の役職 役員
2023年9月18日ご逝去
(享年64歳)
ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

編集子ヴォイス
早二年皆様それぞれのアレがあり悲喜交々の卯年のことと存じます。又通信発行にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
48号は、遠い昔の思いを乗せながら笑顔でバス旅を満喫してまいりました「★親陸秋の駿河路」★清美寮の思い出の特集を掲載いたしました。
やはりはとバスでの二時代の経験は「短くも美しく燃ゆ」だと思えます。そのあなたのかけがえない記憶を風化させないで下さい。今だからこそ鳩友会の車窓から轍に刻んだ恋しい風景を切り取り、投稿を是非お寄せ下さい。「わが故郷の観光情報」や「マイブーム」「夢の途中、今日どうする?」などの記事や写真でも構いません。通信とホームページにあなただの足跡を残してみませんか?会員相互の喜びや励みにもなると思えます。これからもご期待にお応えできるよう編集委員一同邁進してまいります。末筆ですが、鳩が飛ぶ世界平和と来る年、皆様の運氣が上がり茶柱が辰ことをお祈り申し上げます。
(本田 浩 記)